



学校だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/yokohamafukayadai>

令和4年1月6日

1月号

横浜市立横浜深谷小学校

校長 角井 治朗

想いを行動につなげて

校長 角井 治朗

明けましておめでとうございます

一昨年に続き、世界中が新型コロナウイルスの対応に追われた2021年でしたが、保護者や地域の皆様には、本校の教育活動に温かいご支援をいただきありがとうございました。まだまだ不安な情勢は続いていますが、治療薬の開発の進展など、希望につながるニュースも伝わってきています。学校におきましても、今後も新たな生活様式を遵守することを基本にしつつ、その中でできることやよりよいやり方を模索しながら教育活動を進め、子どもたちが希望をもって前向きに過ごしていくことができるようにしていきたいと考えています。本年もご家庭、地域をはじめ、様々な方々にお力添えをいただき、共に子どもたちの成長を支えていかれたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、12月の学校だよりでもお伝えしたように、本校では、12月に人権週間の取組を行いました。生活アンケートを実施したほか、クラスごとに、さまざまな考えや違いのある友だちと仲良くしていくために大切にしたいことについて話し合ったり考えたりする時間をもってきました。そして、各クラスで話し合ったことを朝会で発表するとともに、校内にも掲示して意識付けを図りながら、実際の行動に結び付けていきたいと考えています。また、児童会活動でも「全校のみんなを大切にする週間」の取組として「ヨコフカあいさつ週間」を行いました。この取組をきっかけに、登校してくる子どもたちが笑顔で元気よくあいさつする姿が増えるなど、大きな変化が見られます。人権というと難しく感じることもあるかもしれませんが、まずは気持ちよくあいさつを交わし、また、友だちと一緒に話し合ったり考えたりすることで、それぞれの学年なりに大切にしたい想いをもつことができていると感じます。相変わらず社会全体に不安が広がる中、このような想いが、文字通り「絵に描いた餅」にならず日々の行動につなげていけるように指導を継続していくことが大切であると考えています。

今年度も残すところ3ヶ月足らずとなり、今年度の振り返りや次年度の準備が本格化する時期になりました。冒頭でも触れたとおり、コロナ禍への対応は学校においても困難の連続ではありますが、同時に、これまで当たり前のようになってきた一つ一つの取組を見つめ直す機会にもなっています。また、12月にご協力いただいた学校評価アンケートの結果もしっかりと受け止め、共に“ウィズ・コロナ”、“アフター・コロナ”の学校づくりを進められたらと思います。そして、ご家庭や地域、さまざまな関係機関とも連携しながら、年度のしめくくりを着実に進めていきたいと思っています。